

岸和田市スポーツ推進計画

～全世代の体力向上計画～

改定版（案）

2024 年●月

目 次

第1章 策定にあたって	1
1. 計画策定の目的	1
2. 上位計画における計画の位置づけ	1
3. 計画期間	2
4. 計画の改定	2
5. 本計画における「運動」「スポーツ」の定義	3
 第2章 岸和田市のスポーツを取り巻く現状と課題	 4
1. 国内の動向	4
2. 国・大阪府の政策	5
3. 岸和田市の現状と課題	6
(1) 市民意識調査	6
(2) 社会体育施設の再編整備	6
(3) 分野ごとの課題	6
 第3章 計画の基本方針と体系	 9
1. 基本方針	9
2. 取組みの体系	10
 第4章 スポーツ推進に向けた取組み	 11
1. スポーツ活動の推進	11
(1) 各種スポーツ大会・スポーツイベント・スポーツ教室等の充実...	11
(2) 学校・家庭・地域が連携した子どもの体力向上、青少年の健全育 成、仲間づくりの推進.....	12
(3) 働き盛り世代・子育て世代のスポーツの促進.....	13
(4) 高齢者の健康増進・生きがいづくりのためのスポーツの推進.....	14
(5) 障がいのある人のスポーツの支援及び振興.....	15
(6) スポーツ関係団体等との連携・協働.....	16

2. スポーツ環境の整備	18
(1) 社会体育施設等の適切な管理運営と計画的な施設の再編整備.....	18
(2) 学校体育施設の利用の推進.....	20
(3) スポーツ推進委員の活動支援.....	21
(4) スポーツ情報の積極的発信・収集.....	22
3. スポーツ活力を活かした魅力の創造	23
(1) トップアスリートと市民が触れ合う機会の充実.....	23
(2) トップアスリートをめざすジュニア選手や競技選手の養成.....	23
(3) 大規模スポーツイベントの開催・誘致.....	23
(4) 民間の活力を活かした生涯スポーツの推進.....	24
第5章 計画の推進に向けて	25
1. 計画の推進体制	25
2. 計画の進行管理	26

第1章 策定にあたって

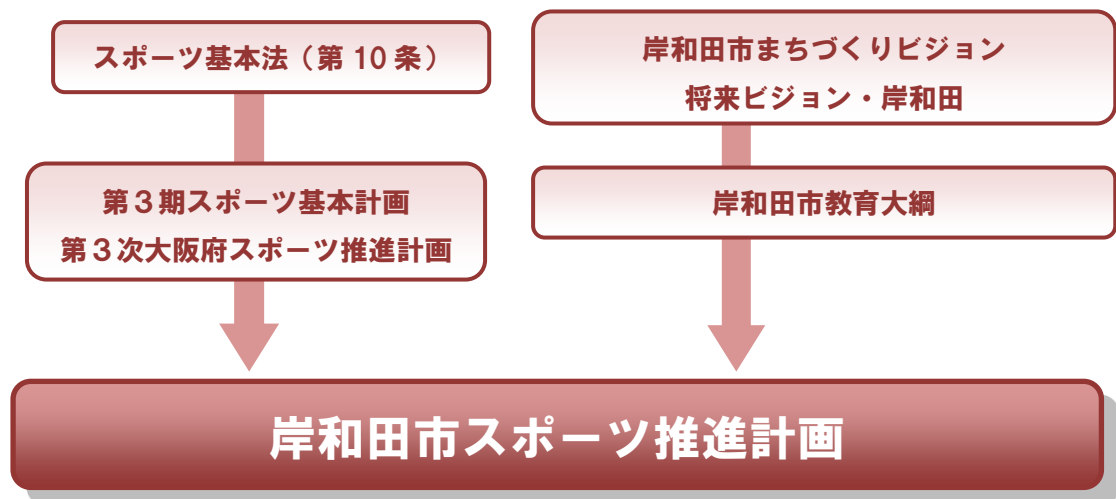
1. 計画策定の目的

本計画は、スポーツ基本法の趣旨に基づき、運動・スポーツを通じて幼児から高齢者まで、全世代の市民がスポーツに親しむことができる環境づくりや、多様化するライフスタイルや個々のニーズに応えるため、体力向上と心身の健康づくりに関わる方針と施策を明確に定め、総合的かつ計画的にスポーツ推進に関わる多様な施策の推進を図っていくものです。

2. 上位計画における計画の位置づけ

本計画は、国が策定した「第2期スポーツ基本計画」、大阪府が策定した「第2次大阪府スポーツ推進計画」の方針を踏まえ、「岸和田市まちづくりビジョン(第4次岸和田市総合計画)」の施策目標や関連諸施策との整合性を図り、また、「全世代の体力向上」をテーマとし策定されました。

2022(令和4)年に新たに策定された国の「第3期スポーツ基本計画」、「第3次大阪府スポーツ推進計画」、「将来ビジョン・岸和田」及び関連諸施策との整合性を図りながら、「全世代の体力向上」のテーマはそのままに計画を見直します。



3. 計画期間

本計画の期間は、2018(平成 30)年度から 2027(令和 9)年度までとします。また、国のスポーツ基本計画や本市のまちづくりビジョン及び岸和田市教育大綱等関連する計画との整合性を図るため、必要に応じて見直しを行います。

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
国の計画							
	国の計画(第 2 期)					国の計画(第 3 期)	
府の計画							
	府の計画(第 2 次)					府の計画(第 3 次)	
市の総合計画							
	まちづくりビジョン						将来ビジョン
岸和田市教育大綱(市)							
			教育大綱(第2期)				
岸和田市スポーツ推進計画(市)							

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	～2034 年度
国の計画(第 3 期)							
府の計画							
市の総合計画	まちづくり ビジョン	将来ビジョン・岸和田					
岸和田市教育大綱(市)	教育大綱(第 2 期)		教育大綱(第 3 期)2028 年度まで				
岸和田市スポーツ推進計画(市) (改定版)	スポーツ推進計画(市)		スポーツ推進計画(市)(改定版)				

4. 計画の改定

新型コロナウイルス感染症は市民の生活全般に大きな影響を及ぼしたところであり、市民意識調査の結果、市民のスポーツ活動の意識にも変容が見られました。

また、2021(令和 3)年に岸和田市立社会体育施設再編基本方針を、2023(令和 5)年には岸和田市立社会体育施設再編第 1 期実施計画を策定して取組みを進めました。このような本計画策定後の動向を受けて、同改定版を策定するものです。

5. 本計画における「運動」「スポーツ」の定義

「運動」や「スポーツ」の定義については、さまざまな解釈がありますが、「運動」とは、ウォーキングや体操等、体力の維持向上を目的として行われる身体活動を指していると考えています。「スポーツ」とは、ルールに則って行われる競争性、遊戯性を有する身体活動を指していると考えています。

本計画では、幅広く、この「運動」と「スポーツ」を対象としていますが、必要に応じて「スポーツ」や「運動・スポーツ」と表記しています。

第2章 岸和田市のスポーツを取り巻く現状と課題

1. 国内の動向

●近年のスポーツに関する動向

2013(平成25)年にオリンピック・パラリンピックの東京開催が決定し、2015(平成27)年にはスポーツに関する施策を総合的に推進するためスポーツ庁が創設されました。

2019(令和元)年には「ラグビーワールドカップ2019」が開催されました。「第32回夏季オリンピック・パラリンピック東京大会」は新型コロナウイルス感染症の影響により、2020(令和2)年から2021(令和3)年に延期され開催、また、同年に開催を予定していた生涯スポーツの国際総合競技大会である「ワールドマスタースゲームズ2021 関西」は2027(令和9)年に延期され「ワールドマスタースゲームズ2027 関西」として開催される予定となっています。

年	出来事
2010年(平成22年)	「スポーツ立国戦略」策定
2011年(平成23年)	50年ぶりにスポーツ振興法改正、「スポーツ基本法」施行
2012年(平成24年)	第1期「スポーツ基本計画」策定
2013年(平成25年)	第32回夏季オリンピック・パラリンピック 東京大会開催決定
2015年(平成27年)	スポーツ庁発足
2017年(平成29年)	第2期「スポーツ基本計画」策定
2019年(令和元年)	ラグビーワールドカップ2019
2021年(令和3年)	第32回夏季オリンピック・パラリンピック 東京大会
2022年(令和4年)	第24回冬季オリンピック・パラリンピック 北京大会 第3期「スポーツ基本計画」策定
2023年(令和5年)	ワールドカップバレー2023/FIVB パリ五輪予選 バスケットボールワールドカップ2023 フィリピン・インドネシア・日本
2024年(令和6年)	第33回夏季オリンピック・パラリンピック パリ大会
2025年(令和7年)	ワールドマスタースゲームズ2025 台北・新北
2026年(令和8年)	第25回冬季オリンピック・パラリンピック ミラノ・コルティナダンペッツォ
2027年(令和9年)	ワールドマスタースゲームズ2027 関西

2. 国・大阪府の政策

●スポーツ基本法

2011(平成 23)年に 50 年ぶりに「スポーツ振興法」が改正され、「スポーツ基本法」が施行されました。同法前文で、スポーツは「世界共通の人類の文化」「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利である」旨を規定し、スポーツによる地域の一体感や活力の醸成、地域社会の再生への寄与、健康長寿社会の実現等を位置づけています。

●国のスポーツ基本計画(第3期)

2012(平成 24)年にはスポーツ基本法の理念を具現化する指針と具体的施策を位置づけた「スポーツ基本計画」が策定され、2017(平成 29)年には、「第 2 期スポーツ基本計画」が、2022(令和 4)年には、第 2 期計画期間中に生じた社会変化や出来事等を踏まえ、「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会をめざし、第 3 期の「スポーツ基本計画」が策定されました。

●府のスポーツ推進計画(第3次)

2022(令和 4)年に「第 3 次大阪府スポーツ推進計画」が策定され、めざすべきスポーツ像として「スポーツ楽創都市・大阪」「スポーツとともに成長し、楽しさあふれる大阪へ」を掲げています。また、基本理念として、「誰もが『する』『みる』『ささえる』を通じスポーツを楽しむ」「スポーツの楽しさを共有し、楽しさがあふれる大阪のまちへ」スポーツの楽しさを通じ、人とまちが活性化し、ともに成長する」を位置づけています。また、目標の実現に向け、「誰もが地域で楽しむスポーツ・健康づくり」「成長するスポーツで楽しいまちづくり」を 2 本の柱としています。

3. 岸和田市の現状と課題

(1) 市民意識調査

コロナ禍の影響を知るために 2022（令和 4）年度に「岸和田市スポーツに関する市民意識調査」を実施した結果、「年齢層にあった個人で気軽に楽しめるスポーツ」への移行や「スポーツに関する広報活動」へのニーズが見られました。

このことから、これらを支えるための事業を拡充することとしました。

※アンケート結果の概要は別添参照

(2) 社会体育施設の再編整備

社会体育施設の管理については、その利用価値を高めるため、2019（平成 31）年度から市民プールと青少年広場を除く社会体育施設について、一元的に指定管理制度を導入しており、より良い運営形態について検討を進めています。

本市の社会体育施設は、各地域に配置され、スポーツに親しむ環境が整備されていますが、施設の老朽化、耐震性の不備、維持管理経費の削減等が課題となっています。

こうした課題に対応するため、2016（平成 28）年 2 月に策定された「岸和田市公共施設等総合管理計画」及び同年 3 月に策定された「岸和田市公共施設最適化計画」を踏まえ、2021（令和 3）年 3 月に「岸和田市立社会体育施設再編基本方針」を策定しました。

2023（令和 5）年 10 月には、この基本方針に基づき、「岸和田市立社会体育施設再編第 1 期実施計画」を策定し、2024（令和 6）年 3 月末で市民道場心技館を廃止しました。

第 2 期実施計画は、計画期間を 2026（令和 8）年度から 2035（令和 17）年度として、「総合体育館及び中央体育館」、「市民プール」、「運動広場等」を対象に策定します。

(3) 分野ごとの課題

(1) 市民のスポーツ

- 市民の運動・スポーツ年間実施率は、今回の調査では **44.5%** で、前回調査 **48.9%** より低下しています。
- 運動・スポーツをする目的の第 1 位は前回と同じく「健康・体力づくりのため」で、個人的に行えるウォーキング、ジョギング、筋肉トレーニング等の順に実施率が高くなっています。
- 運動・スポーツの実施頻度や実施理由について、年代によって大きく異なる傾向が出ているため、年齢層にあったスポーツの普及が求められています。

➡ 一人ひとりのライフステージやライフスタイルに合った運動・スポーツが実施可能な環境整備やきっかけづくりが必要（特に比較的若い世代、子育て世代への働きかけ）

(2) 子どものスポーツ

- 週1回以上の運動・スポーツ実施率は、小学生は 77.3%、中学生は 73.3%と高くなっていますが、いずれも女子の実施率が男子より低く前回と同様となっています。
- 令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣調査によると、小学生、中学生ともに体力合計点は全国平均よりも低い状況です。
- 中学生になると、自由時間や帰宅後に運動・スポーツや外遊びをする生徒の割合が低くなる傾向がみられます。

➡ 市独自での子どもの体力向上の取組みを進めるとともに、スポーツをしていない子どもへの啓発やスポーツの機会の提供等が必要

(3) 高齢者のスポーツ

- 本市の老年人口(65歳以上の人口)は市民の約28%(2022年国勢調査)で、前回26%(2015年国勢調査)と比較すると約2%の増加、今後も老年人口は増加する見込みとなっています。
- 高齢者の運動・スポーツ実施率は、全国的に高い傾向にあり、その理由として、「健康・体力づくり」を目的にあげる人が多くみられます。
- 70歳以上では、運動・スポーツができない理由に年齢や体調をあげる人が多くみられます。

➡ 高齢者の運動・スポーツを通じた健康づくりや介護予防、生きがい、仲間づくり等、さまざまなニーズや体力に応じた多様なメニューの展開が必要

(4) 障がいのある人のスポーツ

- 障がいのある人が気軽にスポーツを楽しめる機会や場が少ない状況となっています。
- 障がいのある人のスポーツを通じた社会参加の機会、地域の人との交流の機会や場が不足しています。

➡ 障がいのある人のスポーツ推進をささえる(指導や大会運営サポート)人材の確保や障がい者スポーツの認知度の向上が必要

(5) 社会体育施設

- 本市の社会体育施設は老朽化し、維持管理費用のコストが増大しています。
- スポーツをするために公共施設を利用する市民は 18.1%にとどまっています。(前回 26.5%)
- 社会体育施設での初心者向けの教室や行事の充実のほか、利用時間帯の拡大、施設数の増加、利用手続き等の簡略化、広報の充実などが求められています。

➡ 社会体育施設の役割分担・すみわけにより、多様な市民ニーズへの対応を図るとともに、適正な管理運営と計画的な施設の再編整備が必要

(6) プロスポーツ観戦・大規模スポーツイベント

- 新型コロナウイルス感染症の影響による大規模スポーツイベントの中止や、無観客での開催の時期があり、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の開催についても 2027(令和9)年へ延期となっています。
- 総合体育館でのプロリーグの誘致等、トップアスリートと触れ合う機会が増えてきましたが、まだ少ない状況となっています。
- 東京オリンピック・パラリンピックには国内外から多くの参加者があり、2023(令和5)年にはバスケットボールワールドカップ、ワールドカップバレーの開催や、フランスではラグビーワールドカップ 2023 が開催されるなど、スポーツ熱も再度高まってきています。

➡ プロスポーツ大会の誘致や大規模スポーツイベントの開催・誘致等、トップアスリートと触れ合う機会の充実やスポーツによる地域振興が必要

第3章 計画の基本方針と体系

1. 基本方針

本計画は、国が策定した「第3期スポーツ基本計画」、大阪府が策定した「第3次大阪府スポーツ推進計画」の方針を踏まえ、「将来ビジョン・岸和田」の施策目標や関連諸施策との整合を図ります。また「全世代の体力向上」をテーマとしています。

【計画のテーマ】

「全世代の体力向上」

超高齢社会の今、運動・スポーツは、市民が健康で豊かな人生を送るために欠かせないものの一つといえます。また、幼少期からの運動・遊びは心身の健全な発育を促すとともに、運動習慣の定着は、将来の生活の充実度を満たすことや心身の健康の増進、生活習慣病予防や介護予防、更には健康寿命の延伸にもつながります。さらに、運動・スポーツを通じた仲間づくり、生きがいくくり、地域の活性化、国際交流にもなります。

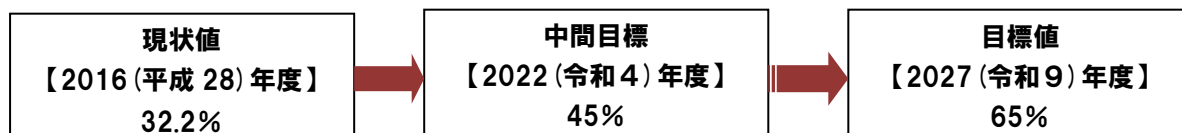
本市では、市民一人ひとりの多様なライフスタイルやライフステージに応じた運動・スポーツの機会や場の充実、きっかけづくりを通じて、「全世代の体力向上」を図っていきます。

また、自らが「する」スポーツだけでなく、プロスポーツの観戦等「みる」スポーツや、スポーツの指導や大会運営のサポート等「ささえる」スポーツの機会や場の充実を図っていくことで、全市民が参加できるスポーツ環境づくり、人づくりを進めていきます。

■ 計画の指標

計画の進捗状況を測る指標として、「週1回以上、運動・スポーツを実施する市民の割合」を設定し、2016(平成28)年度の32.2%から2027(令和9)年度には65%に向上させることをめざします。

週1回以上、運動・スポーツを実施する市民の割合



(※) 将来ビジョン・岸和田第1期基本計画に基づく2022(令和4)年度の市民意識調査において、「週1回以上、運動・スポーツを実施する市民の割合」は、「44.7%」でした。

2. 取組みの体系

「スポーツ活動の推進」「スポーツ環境の整備」「スポーツ活力を活かした魅力の創造」を目標達成のために必要な施策の方針を示す柱と位置づけて取り組みます。

1. スポーツ活動の推進

年齢や体力、技能レベル等に応じたさまざまなスポーツ事業を推進し、さまざまな年代の市民が楽しみながら参加、活動できる機会や場を提供します。また、スポーツ活動を通じた青少年の健全育成、市民の健康増進、生きがいのづくり、仲間づくりに努めます。

【施策の方向性】

- (1) 各種スポーツ大会・スポーツイベント・スポーツ教室等の充実
- (2) 学校・家庭・地域が連携した子どもの体力向上、青少年の健全育成、仲間づくりの推進
- (3) 働き盛り世代・子育て世代のスポーツの促進
- (4) 高齢者の健康増進・生きがいのためのスポーツの推進
- (5) 障がいのある人のスポーツ支援及び振興
- (6) スポーツ関係団体等との連携・協働

2. スポーツ環境の整備

市民の多様化するニーズの把握に努め、安全に楽しくスポーツができる環境の整備を促進し、社会体育施設を利用する機会を創出します。

【施策の方向性】

- (1) 社会体育施設等の適切な管理運営と計画的な施設の再編整備
- (2) 学校体育施設の利用の推進
- (3) スポーツ推進委員の活動支援
- (4) スポーツ情報の積極的発信・収集

3. スポーツ活力を活かした魅力の創造

トップアスリートのパフォーマンスや大規模スポーツイベントを本市の魅力創造の重要なコンテンツとして捉え、発信します。

【施策の方向性】

- (1) トップアスリートと市民が触れ合う機会の充実
- (2) トップアスリートをめざすジュニア選手や競技選手の養成
- (3) 大規模スポーツイベントの開催・誘致
- (4) 民間の活力を活かした生涯スポーツの推進

第4章 スポーツ推進に向けた取り組み

1. スポーツ活動の推進

(1) 各種スポーツ大会・スポーツイベント・スポーツ教室等の充実

市民のスポーツに対する意識やニーズが多様化し、ライフステージに応じた運動プログラムの提供が求められていることから、ニーズに応じたスポーツイベントの開催のほか、全市民が一斉に気軽にスポーツを親しめる「市民スポーツカーニバル」の開催等、市民がスポーツに触れる機会を充実します。

また、幼少期から運動・スポーツに取り組むことにより、運動習慣が身につき、生涯を通して運動・スポーツを継続することにつながります。年齢や性別に関わらず日常的にスポーツに親しみ、体力の維持向上や健康な心身を育めるよう、幼児から高齢者までの年齢層に応じた多様なメニューの運動・スポーツ教室を開設します。

【主な取り組み】

取り組み内容	概 要	区分
競技スポーツ大会の開催	多種目の市民スポーツ大会を開催し、多様なニーズに対応したスポーツの機会を提供する。	継続
	スポーツ少年大会を開催し、子どもがスポーツに触れ合い、積極的に参加できる場を提供する。	
体験・参加型スポーツイベントの開催	ニュースポーツやレクリエーションの体験会等を実施し、運動するきっかけを提供する。	継続
	市民が楽しむことができる体験型・参加型のスポーツイベントを開催し、機会や場の提供をする。	
多様なスポーツ教室の開催	社会体育施設等を有効活用して、幼児から高齢者が運動をするきっかけとなる多様なメニューの教室を開催する。	継続
	岸和田の子どもたち全員を泳げるようにするため水泳教室の開催を継続する。	



市民スポーツカーニバル校区対抗綱引き



初心者水泳教室

(2) 学校・家庭・地域が連携した子どもの体力向上、青少年の健全育成、仲間づくりの推進

幼児期から少年期にかけての運動・スポーツの経験は、心身の健全な育成に大きな影響を与えるとともに、その後の豊かな生活を築くための基盤となります。

そのため、子どもの体力向上、運動・スポーツを通じた心身の健全な育成に向けて、学校・家庭・地域が連携し、幼児期からの遊びや運動習慣の定着を図ります。また、教職員の指導力向上やスポーツ指導者の活用等による体育・保健体育授業の充実、地域移行等による運動部の活性化等、学校の教育活動全体を通じて、児童生徒が運動・スポーツの楽しさや喜びを味わえるようにします。さらに青少年の健全育成や仲間づくりに向けて、地域でのスポーツ活動の継続を支援します。

【主な取組み】

取組み内容	概 要	区分
幼児期からの運動・遊びの推進	各種イベント等を通じて、幼児及びその保護者等を対象とした「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）（※）」の普及啓発を図る。	継続
	親子が集う機会を活かし、親子体操プログラム等を大阪体育大学等と連携し展開する。	
体育・保健体育授業の充実	教育研究会等における授業研究に対して支援を行い、各校での授業や体力づくりに係る取組みの充実を図る。	継続
	小中学校の教職員対象に、体育実技に関する研修会を開催し、教員の指導力向上を図る。	
運動部活動の充実	運動部活動の成果を発揮する場として、大会を開催する。	継続
	部活動指導員の派遣や中学校運動部活動の地域移行の取組みを進める。	新規
トップアスリートとの交流促進	小中学校等へトップアスリートを招へいし、子どもたちとの触れ合い交流を図る。	継続
子ども会のスポーツ大会の支援	各校区の子ども会でスポーツをとおして親睦を深めることのできる場や子どもたちがスポーツマンシップを身につけられる機会を提供する。	継続
子どもがスポーツに親しむことができる機会の充実	子どもに運動・スポーツの楽しさを伝えるため、地域のスポーツ団体・クラブ等における体験・交流の機会を充実させる。	新規
	中学生の運動・スポーツ離れ抑止の取組みを進める。	

幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム（※）

子どもを対象に運動・遊びを指導する際、子どもが楽しみながら積極的に体を動かすことができるようわかりやすく解説されているプログラム

(3) 働き盛り世代・子育て世代のスポーツの促進

仕事や子育てで忙しいが運動不足の認識が高い比較的若い世代・子育て世代がスポーツに取り組むきっかけづくりとして、仕事や家事、育児の合間の「すきま時間」に親子や家族ぐるみで一緒に気軽に取り組めるスポーツの普及や、地域で気軽に運動やスポーツを楽しめる環境づくりにより、働き盛り世代・子育て世代のスポーツ活動を支援します。

また、運動・スポーツは生活習慣病の予防やストレスの発散等、健康づくりの重要な要素の一つであり、市民の健康づくりを支援するための諸関連計画と連携し、運動・スポーツへの参加を促す取組みを推進します。

【主な取組み】

取組み内容	概 要	区分
スポーツの「きっかけ」に向けた意識啓発	S N S等を活用した情報発信等により、仕事や家事、育児の合間を活用した「すきま時間運動」や仕事等をしてしながら身体を動かす「ながら運動」など気軽に取り組める運動の普及啓発をする。	拡充
親子で取り組めるスポーツの推進	親子が集う機会を活かし、親子で楽しめるスポーツ教室やスポーツイベント等を企画・実施する。	継続
健康づくり教室の開催	生活習慣病予防、ロコモティブシンドローム（※）予防のきっかけづくりとなる教室を開催する。	継続
地域クラブの支援	公民館・青少年会館で活動しているクラブや新たに活動するクラブの立ち上げを支援する。	継続
スポーツ活動をしやすい環境づくり	いつでも、どこでも気軽にスポーツができるよう、スポーツ施設の利活用について検討する。	継続
	市民が気軽に運動・スポーツに親しめるよう、サイクリングマップ等の有効利用や、ウォーキングやランニングルートの検討等、運動・スポーツを気軽に楽しむためのツールの開発・普及に努める。	拡充

ロコモティブシンドローム（※）

「運動器症候群」。筋肉や骨、関節等の運動器のいずれか、あるいは複数の障がいが発生し、「立つ」「歩く」といった機能が低下している状態。

(4) 高齢者の健康増進・生きがいつくりのためのスポーツの推進

超高齢社会を迎える中で、市民が生涯にわたって心身ともに健康で元気に過ごせるよう、高齢者の高い健康意識に対応できる健康づくり事業として、それぞれの年齢、体力、興味、技能、目的等によって取組みやすい体操やニュースポーツ等の普及・推進を図ります。

また、高齢者の運動・スポーツ活動は、仲間づくりを目的に行う人も多いため、運動・スポーツに関心を持ってもらうための環境づくりに努めます。

【主な取組み】

取組み内容	概 要	区分
健康づくり教室の開催	日常生活の中に運動習慣を取入れるきっかけづくりとなる教室や講演会を開催する。	継続
介護予防教室の開催	介護予防を定着させるため、市内各所で介護予防教室を実施する。 「いきいき百歳体操」「シニア体操」等、それぞれの体力に応じて取組める体操等の普及・推進を図る。	継続
ニュースポーツ等の普及・推進	ボッチャ、モルック、ペタンク、グラウンド・ゴルフ等、年齢を問わず気軽に楽しむことができるニュースポーツやレクリエーション型のスポーツメニューを提供するとともに、仲間づくりを推進する。	継続
スポーツを通じた生きがいつくり	スポーツ大会やイベント等のボランティア、子どもたちの指導者として高齢者を起用することにより、生きがいつくりを支援する。	継続



いきいき百歳体操



グラウンド・ゴルフ体験会

(5) 障がいのある人のスポーツの支援及び振興

東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催を契機としたパラスポーツ(※1)に対する関心の高まりを受けて、障がいのある人の興味関心に対応できる機会の充実を図ります。

また、障がいのある人が運動・スポーツを楽しむ、社会参加・地域参加ができる環境づくりに取組むとともに、アダプテッド・スポーツ(※2)をとおして障がいのある人と健常者の交流の中でのノーマライゼーション(※3)への理解を高めるための啓発を推進します。

【主な取組み】

取組み内容	概 要	区分
障がいのある人のスポーツ大会の支援	より多くの障がいのある人がスポーツ大会やレクリエーション大会に参加しやすいよう運営支援等を行う。	継続
	障がいの有無に関わらず、誰もが参加しやすく一緒にスポーツを楽しめるスポーツ大会やイベント等を検討する。	
パラスポーツ等の普及	障がいの有無に関わらず、誰もが参加しやすいパラスポーツの教室等を開催する。	継続
	パラスポーツ及びアダプテッド・スポーツの普及啓発を推進する。	
障がいのある人のスポーツ環境の整備	障がいのある人がスポーツに取組む機会や、人との交流、健康づくり、生きがいづくりのために福祉総合センター体育館の利用を促す。	継続
	障がいのある人へのスポーツ活動をささえるスポーツボランティアの養成を進める。	

パラスポーツ(※1)

いわゆる障がい者スポーツのことで、ルールなどが確立されているスポーツ種目。車いすバスケットボール、シッティングバレー、ボッチャなど。

アダプテッド・スポーツ(※2)

特定の種目をさすのではなく、そのスポーツに参加するひとの身体の状態や年齢など、体力や障がいによってルールや道具を柔軟に変更する考え方。風船バレーやフライングディスクなど。

ノーマライゼーション(※3)

障がいのある人が障がいのない人と一緒に普通に生活できるようにすること。あるいはそのような理念。

(6) スポーツ関係団体等との連携・協働

効果的な施策の推進を図るためには、地域のサポートが欠かせません。本市では、NPO 法人岸和田市スポーツ協会（旧岸和田市体育協会）、岸和田市スポーツ少年団、岸和田市スポーツリーダークラブ、総合型地域スポーツクラブが地域においてさまざまなスポーツを拡げる活動を行っています。スポーツ関係団体による地域におけるスポーツ活動の活性化を促進するため、関係団体(※)と連携するとともに、スポーツ団体の活動の周知の支援を図り、市民とスポーツ団体の接点をつくるなど、これらの団体の支援に取り組みます。

【主な取組み】

取組み内容	概 要	区分
市内スポーツ関係団体と連携した中学校運動部活動の地域移行の推進	関係団体と連携し、中学校運動部活動地域移行の取組みを進める。	新規
岸和田市スポーツ協会との協働、支援	自主的な団体運営をするための活動を支援する。	継続
	他団体との連携を図る体制づくりを推進する。	新規
岸和田市スポーツ少年団の育成支援	協会所属のスポーツ団体の活動の周知を支援し、市民とスポーツ団体の接点を広げる。	継続
	児童生徒の加入促進、新たなスポーツ少年団の登録を支援する。	
	指導者の研修への参加を促進する。	
岸和田市スポーツリーダークラブの育成支援	特定のスポーツ種目だけの活動ではなく、社会活動、文化活動、野外活動等への参加を促す。	継続
	スポーツリーダークラブの自発的な活動をささえ、クラブ員相互の連携を促すため、スポーツリーダークラブが行う活動と連携するとともに支援を行う。	
総合型地域スポーツクラブの支援	さまざまなスポーツ大会やイベントの開催時にそれをささえるスポーツボランティアの活動を支援する。	継続
	全世代が運動に親しむことができる活動を支援する。	
	運動習慣がない人等を対象とした体験・交流の機会の充実を支援する。	
	総合型地域スポーツクラブの広報活動等を支援する。	
	地域で活動しているクラブの把握に努め、総合型クラブとの連携や総合型クラブへの転換を促す。	

(※)スポーツ関係団体

■NPO法人岸和田市スポーツ協会

1946(昭和21)年に「岸和田文化人スポーツクラブ」として創設され2008(平成20)年に特定非営利活動法人(NPO法人)の認定を受け、2020(令和2)年にNPO法人岸和田市スポーツ協会に改称。2023(令和5)年現在は25種目の競技団体等で組織し活動している。

【加盟種目】

陸上競技、テニス、ボディビル、居合道、バレーボール、軟式野球、ハンドボール、アーチェリー、弓道、バスケットボール、ソフトボール、水泳、空手道、バドミントン、ソフトテニス、柔道、少林寺拳法、クレール射撃、サッカー、剣道、卓球、合気道、ソフトバレーボール、グラウンド・ゴルフ、健康体操

■岸和田市スポーツ少年団

1979(昭和54)年に創設され8種目18団体が登録し組織されている。主に小学生を対象としたスポーツチームが活動している。

【登録種目】

軟式野球、少林寺拳法、空手道、実践空手、武道空手道、アジャタ、空道、バレーボール

■岸和田市スポーツリーダークラブ

1989(平成元)年に地域及び職場でのスポーツの核となるリーダーを育成する目的で岸和田市スポーツリーダー養成講座を開催し、1990(平成2)年に受講修了者がスポーツ技術・技能の向上を目的に組織し活動している。

■総合型地域スポーツクラブ

身近にスポーツに親しむことができ、多世代がさまざまなスポーツをそれぞれの技能レベルに合わせて参加できる特徴を持つ、自主的・主体的に運営されているスポーツクラブで、本市では、NPO法人FC岸和田、NPO法人スポーツクラブディアマンテの2クラブが活動している。

2. スポーツ環境の整備

(1) 社会体育施設等の適切な管理運営と計画的な施設の再編整備

岸和田市立社会体育施設再編第1期実施計画に続き、「総合体育館及び中央体育館」、「市民プール」、「運動広場等」を対象とした実施計画を策定します。また、2024（令和6）年策定の「屋内プール整備方針」に基づき、屋内プールの整備に取り組みます。

社会体育施設以外にも市民一人ひとりの多様なライフスタイルやライフステージに応じた、スポーツに親しむための環境の整備について検討します。

【主な取り組み】

取り組み内容	概 要	区分
社会体育施設以外の活用	ウォーキングコース、ジョギング・ランニングコースの設定など、運動・スポーツを楽しむための環境整備について検討する。	新規
社会体育施設の再編整備	「岸和田市立社会体育施設再編基本方針」に基づき、施設マネジメントを含めた施設のあり方を検討し、実施計画（個別施設計画）を策定する。 総合体育館が、「競技スポーツの拠点」となるような環境づくりを検討する。	継続
社会体育施設の維持管理	民間の活力を活かした指定管理者制度の導入を検討する。 ⇒2019(平成31)年度に市民プールと青少年広場を除き指定管理制度を導入済 指定管理制度によるより良い運営形態を検討する。	達成
	「岸和田市立社会体育施設再編基本方針」に基づき、施設マネジメントを含めた施設のあり方を検討し、実施計画（個別施設計画）を策定する。（再掲）	新規
施設規模に応じた利用促進	市民ニーズを踏まえ、指定管理者等と連携しながらそれぞれの施設規模に応じた利用内容、利用の形態等を検討する。	継続
	社会体育施設を利用しやすくするために、類似施設の管理の一元化について検討する。 ⇒2019(平成31)年度より、類似する社会体育施設の一元化による管理を実施している。	達成
	若い世代の利用促進に向け、多様なニーズに対応できるよう共用利用等を検討する。	継続

■社会体育施設の役割と方向性

区分	施設数	役割と課題	今後の方向性
屋内施設	3	●総合体育館は、全市域施設として、市民だけでなく広域的なスポーツニーズにも対応	●全市域施設（本市の中核的な役割）として積極的に活用を図る。 ●スポーツの拠点（スポーツ観戦等）としての価値を高める。
		●中央体育館は、全市域施設としての機能を補完	●市民の地域スポーツの場として有効活用を図る。 ●老朽化の進行・耐震性に欠ける現状から、早期にあり方を検討する。
		●春木体育館は、市域北西部の地域施設としての活用に限定	●2018(平成 30)年の台風 21 号による大規模損害に伴い廃止
		●市民道場心技館は、武道の全市域施設としての役割を担っているが、フロア面積、付帯設備等に課題	●耐震性に欠ける施設であり、他施設への機能移転が可能なことから、2024(令和 6)年 3 月で廃止
運動広場	8	●地域のスポーツ活動をささえる場 ●全市域施設または地域施設の機能分化が不明確で、更衣室、夜間照明、駐車場等の付帯設備の整備に遅れがみられる。 ●施設の絶対数が不足しており、特に土日祝休日の市民のスポーツニーズに十分に対応できていない。	●中央公園スポーツ広場、牛ノ口公園運動広場、浜工業公園球技広場、葛城運動広場は全市域施設として活用を図る。 ●春木、八木、久米田公園の運動広場は地域施設として、十分な活用を図る。 ●施設マネジメントを含めた施設のあり方を検討する。
青少年広場	8	●青少年のスポーツ活動を中心とした野外活動の場 ●十分なスポーツ活動が行えない規模の施設もあり、活用方法、管理運営形態等について再検討が必要	●青少年を中心としたスポーツ活動の地域施設として活用を図る。 ●施設マネジメントを含めた施設のあり方を検討する。
テニスコート	6	●一部を除き、更衣室、夜間照明、駐車場等の付帯施設の整備が不十分	●中央公園、浜工業公園、葛城、牛ノ口公園、野田公園、春木台場のテニスコートは、地域施設としての活用を図る。 ●施設マネジメントを含めた施設のあり方を検討する。
プール	13	●市民の遊泳の場として整備。近年、使用者数が減少 ●一部を除き、施設の老朽化、付帯設備の更新に遅れがみられる。	●「屋内プール整備方針」に基づきプールの再編整備を進める。

施設数は、2023（令和 5）年度当初のものです。

(2) 学校体育施設の利用の推進

全世代が気軽に運動・スポーツができる機会を、学校教育に支障のない範囲内で提供できるよう、学校体育施設開放運営協議会と連携し、市内の全小中学校の運動場、体育館等を有効活用し、学校開放の目的である「学校と地域との良好なつながり」「地域におけるスポーツの振興」の役割を果たします。

また、各学校体育施設開放運営協議会の組織強化、公平・平等な利用調整、利用実態等の把握、使用料金の徴収等の課題に対して関係者と慎重に協議し課題解決を図ります。

【主な取組み】

取組み内容	概 要	区分
学校体育施設の有効活用	市民のスポーツの機会の拡充に向けて、学校教育に支障のない範囲で施設を開放する。	継続
	使用料を「岸和田市受益者負担基本方針」に基づき設定し、徴収を検討する。	
学校体育施設開放運営協議会の支援	学校体育施設開放運営協議会の組織基盤強化を支援する。	継続
	公平・平等な運営ができるよう、各学校共通の施設利用登録及び使用の基準の設定を検討する。	

(3) スポーツ推進委員の活動支援

本市における生涯スポーツの推進を担うスポーツ推進委員(※)の役割を十分に周知し、地域での市民に対するスポーツの指導及び普及活動を支援します。

スポーツ推進委員活動の一層の充実を図るため、全国規模で開催する研修会への参加を促し、資質向上に努めます。

また、ニーズを踏まえた新しいスポーツ種目のほか、年齢や体力に関わらずレクリエーションのように楽しむことができるニュースポーツの導入や、本市においてシンボルとなるスポーツの検討等、市民のスポーツへの興味・関心の向上やスポーツによる本市の活性化につながる取組みを推進します。

【主な取組み】

取組み内容	概 要	区分
岸和田市スポーツ推進委員活動の活性化	強化を図るため、生涯スポーツを推進する中核的な人材として、スポーツ推進委員の役割を明確にし、体制づくりを進める。	継続
	地域の身近な場所を利用し、幅広い年齢層が楽しむスポーツイベントの開催運営を支援する。	
	市民の健康づくりを進めるために市民協議会等と連携し、地域におけるスポーツ・レクリエーションの普及啓発を促す。	
	研修会を開催する等資質の向上に努める。	

岸和田市スポーツ推進委員(※)

小学校24校区から各校区2名スポーツ推進委員として委嘱し、地域のスポーツコーディネータの役割を担う活動をしている。



イベントの開催



ニュースポーツ研修会(グラウンド・ゴルフ)

(4) スポーツ情報の積極的発信・収集

普段から運動・スポーツに取り組んでいる市民や運動・スポーツを始めるきっかけを探している市民に対し、ニーズに合った情報提供をするとともに、スポーツ関連イベントや大会の情報はじめ、施設利用情報等、幅広い情報の発信にさまざまな広報媒体や広報手段を活用しながら努めます。

また、運動・スポーツに関する情報は、庁内の関係課やスポーツ関係団体、施設等さまざまなところから発信されているため、情報交換を密にし、情報共有に努めます。

【主な取組み】

取組み内容	概 要	区分
ホームページや広報等の充実	ホームページや広報紙を活用し、スポーツ施策、スポーツ大会、関係団体の活動等の情報を随時発信する。	拡充
多様なメディアの活用	S N S等多様なメディアを活用したスポーツ関連情報の発信を一層進める。	拡充
施設予約システムの充実	パソコンやスマートフォンを利用して、いつでもどこからでもスポーツ施設の使用手続きができる施設予約システムの機能の充実を図る。	継続

3. スポーツ活力を活かした魅力の創造

(1) トップアスリートと市民が触れ合う機会の充実

民間団体やスポーツ団体と連携し、一人でも多くの市民がトップアスリートと触れ合う機会やスポーツの持つ素晴らしさを体感できる機会を提供することで、スポーツをするきっかけづくりを進めます。

また、総合体育館で開催されるトップチームやトップアスリートの競技を観戦できる機会の提供に努めます。

【主な取組み】

取組み内容	概 要	区分
スポーツ教室の開催	府内で活躍するスポーツチームの選手等、トップアスリートを招へいした教室を実施する。	継続
プロリーグの誘致	プロリーグの誘致により、「みる」スポーツの機会の充実を図る。	継続

(2) トップアスリートをめざすジュニア選手や競技選手の養成

民間団体やスポーツ団体と連携し、トップアスリートをめざすことのできる環境を創出し、次世代アスリートの育成を促します。また、生涯スポーツと競技スポーツの好循環を創出し、スポーツの普及と競技選手の養成を図るとともに、競技選手の意欲を増進する機会の創出に努めます。

【主な取組み】

取組み内容	概 要	区分
ジュニアスポーツ教室の開催	トップアスリートを招へいしたトップアスリート育成教室の開催等を検討する。	継続
スポーツ大会等の成績優秀者に対する表彰	全国や府内における大会等で優秀な成績をおさめた選手を表彰する。	継続

(3) 大規模スポーツイベントの開催・誘致

大規模スポーツイベントの開催を契機に、民間団体やスポーツ団体と連携し、スポーツを通じて本市の魅力を国内外に発信します。

世界・全国から人々が集い、賑わう「まち」を目標に、「する」「みる」「ささえる」スポーツとして市民のみならず国内外の多くの方々が参加でき、地域の魅力を高める大会の開催・誘致をめざします。

【主な取組み】

取組み内容	概 要	区分
プロリーグや全国大会の開催・誘致	プロリーグや全国大会の開催・誘致により、本市の魅力を発信する。	継続
KIX 泉州国際マラソン開催に関する連携	KIX 泉州国際マラソンが円滑に開催できるよう、ボランティアをはじめ関係機関等との協力を図る。	継続
ワールドマスターズゲームズ 2027 関西 BMX 競技大会の実施	ワールドマスターズゲームズ 2027 関西 BMX 競技大会をサイクルピア岸和田 BMX コースにおいて実施する。 多様なメディアを活用しワールドマスターズゲームズ 2027 関西の PR を行う。	継続
「ささえる」スポーツの推進	大規模なスポーツイベントを機として、ボランティアをはじめ、スポーツを支える人材の確保について検討する。	新規

(4) 民間の活力を活かした生涯スポーツの推進

民間団体やスポーツ団体、大学等と連携し、民間に蓄積されたスポーツ資源や人材を活かした生涯スポーツの推進を図ります。

また、スポーツ団体や大学等が行う地域貢献事業に協賛・協力し、積極的に事業を実施できるよう支援します。

【主な取組み】

取組み内容	概 要	区分
スポーツイベントの開催	民間団体やスポーツ団体、大学等が自主的に行う事業を支援する。	継続
民間団体との連携	民間団体やスポーツ団体、大学等が相互に連携できるよう支援する。	継続
大学との連携	近隣の大学とスポーツ連携協定を締結し、連携できるような体制づくりを行う。 2018（平成 30）年度に大阪体育大学と連携協力に関する協定を締結	継続
	大学と連携して、市民一人ひとりの多様なライフスタイルやライフステージに応じた運動・スポーツコンテンツの提供等について検討する。 中学校運動部活動の地域移行に連携して取り組む。	新規

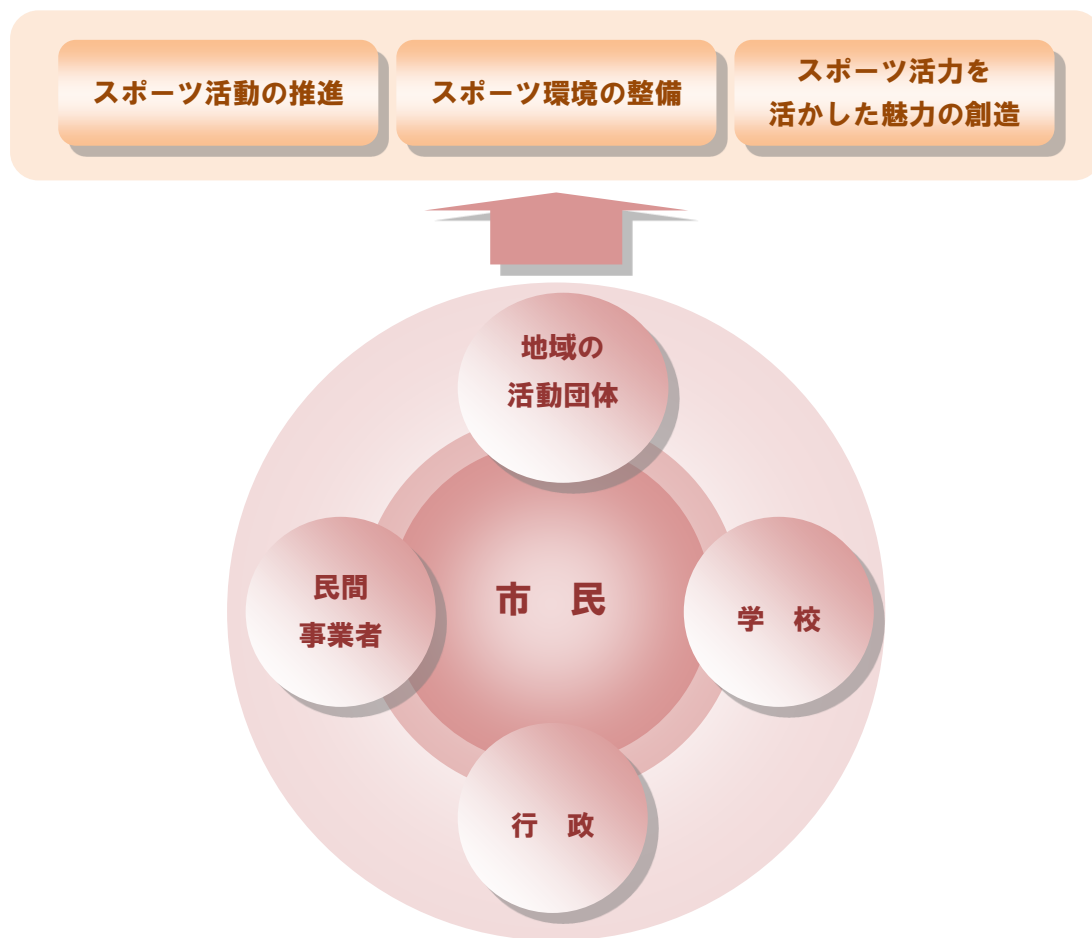
第5章 計画の推進に向けて

1. 計画の推進体制

本計画の推進に向けて、行政は、健康、福祉、子育て、教育、地域コミュニティ等市内各分野の連携を強化するとともに、地域のスポーツ関係団体や学校、民間団体等との連携・協働の取組みができる体制を整えていきます。

また、市民一人ひとりが、それぞれのライフステージ、ライフスタイルに応じて、日常的に身近にスポーツを「する」「みる」「ささえる」取組みに積極的に参加でき、スポーツ関係団体等は、市民の多様なニーズに応えるべく、それぞれの特性を活かしたスポーツ活動を展開できるよう、環境づくりに努めます。

さらに、それぞれの活動の発信や情報交換等により、相互の交流・連携を深めていくとともに、参加者の拡大、活動の輪を広げていきます。



2. 計画の進行管理

取組みの進捗状況について、毎年度、岸和田市スポーツ推進審議会において検証を行うとともに、計画の指標の目標達成状況を調査し、広く市民に公表していきます。

【主な取組みのスケジュール】

1. スポーツ活動の推進

凡例:

実施期間



検討期間



(1) 各種スポーツ大会・スポーツイベント・スポーツ教室等の充実

取組み内容	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
競技スポーツ大会の開催 [スポーツ振興課]										
体験・参加型スポーツイベントの開催 [スポーツ振興課]										
多様なスポーツ教室の開催 [スポーツ振興課]										

拡充して実施

(2) 学校・家庭・地域が連携した子どもの体力向上、青少年の健全育成、仲間づくりの推進

取組み内容	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
幼児期からの運動・遊びの推進 [学校教育課・スポーツ振興課]										
体育・保健体育授業の充実 [学校教育課]										
運動部活動の充実 [学校教育課]										
トップアスリートとの交流促進 [学校教育課・スポーツ振興課]										
子ども会のスポーツ大会支援 [生涯学習課]										
子どもがスポーツに親しむことができる機会の充実 [スポーツ振興課]										

(3) 働き盛り世代・子育て世代のスポーツ活動の促進

取組み内容	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
スポーツの「きっかけ」に向けた意識啓発 [スポーツ振興課]	●●▶									▶
親子で取組めるスポーツの推進 [生涯学習課・スポーツ振興課]	▶									▶
健康づくり教室の開催 [健康推進課・スポーツ振興課]	●●●●●▶									▶
地域クラブの支援 [生涯学習課]	▶									▶
スポーツ活動をしやすい環境づくり [スポーツ振興課]	●●●●●▶									▶

(4) 高齢者の健康増進・生きがいづくりのスポーツの推進

取組み内容	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
健康づくり教室の開催 [健康推進課・スポーツ振興課]	▶									▶
介護予防教室の開催 [介護保険課・スポーツ振興課]	▶									▶
ニュースポーツ等の普及・推進 [スポーツ振興課]	●●●●●▶									▶
スポーツを通じた生きがいづくり [スポーツ振興課]	●●●●●▶									▶

(5) 障がいのある人のスポーツ支援及び振興

取組み内容	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
障がいのある人のスポーツ大会の支援 [障害者支援課・スポーツ振興課]	▶									▶
パラスポーツ等の普及 [障害者支援課・スポーツ振興課]	▶									▶
障がいのある人のスポーツ環境の整備 [障害者支援課・スポーツ振興課]	●●●●●▶									▶

(6) スポーツ関係団体等との連携・協働

取組み内容	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
市内スポーツ関係団体と連携した中学校運動部活動の地域移行の推進 [スポーツ振興課・学校教育課]										
岸和田市スポーツ協会との協働、支援 [スポーツ振興課]										
岸和田市スポーツ少年団の育成支援 [スポーツ振興課]										
岸和田市スポーツリーダークラブの育成支援 [スポーツ振興課]										
総合型地域スポーツクラブの支援 [スポーツ振興課]										

2.スポーツ環境の整備

(1) 社会体育施設等の適切な管理運営と計画的な施設の再編整備

取組み内容	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
社会体育施設以外の活用 [水とみどり課、スポーツ振興課]										
社会体育施設の再編整備 [水とみどり課、スポーツ振興課]										
社会体育施設の維持管理 [水とみどり課、スポーツ振興課]										
施設規模に応じた利用促進 [水とみどり課、スポーツ振興課]										

(2) 学校体育施設の利用の推進

取組み内容	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
学校体育施設の有効活用 [スポーツ振興課]										
学校体育施設開放運営協議会の支援 [スポーツ振興課]										

(3) スポーツ推進委員の活動支援

取組み内容	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
岸和田市スポーツ推進委員活動の活性化 [スポーツ振興課]										

(4) スポーツ情報の積極的発信・収集

取組み内容	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
ホームページや広報等の充実 [スポーツ振興課]										
多様なメディアの活用 [スポーツ振興課]										
施設予約システムの充実 [スポーツ振興課]										

3. スポーツ活力を活かした魅力の創造

(1) トップアスリートと市民が触れ合う機会の充実

取組み内容	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
スポーツ教室の開催 [水とみどり課・公営競技事業所・スポーツ振興課]										
プロリーグの誘致 [スポーツ振興課]										

(2) トップアスリートをめざすジュニア選手や競技選手の養成

取組み内容	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
ジュニアスポーツ教室の開催 [水とみどり課・公営競技事業所・スポーツ振興課]										
スポーツ大会等の成績優秀者に対する表彰 [スポーツ振興課]										

(3) 大規模スポーツイベントの開催・誘致

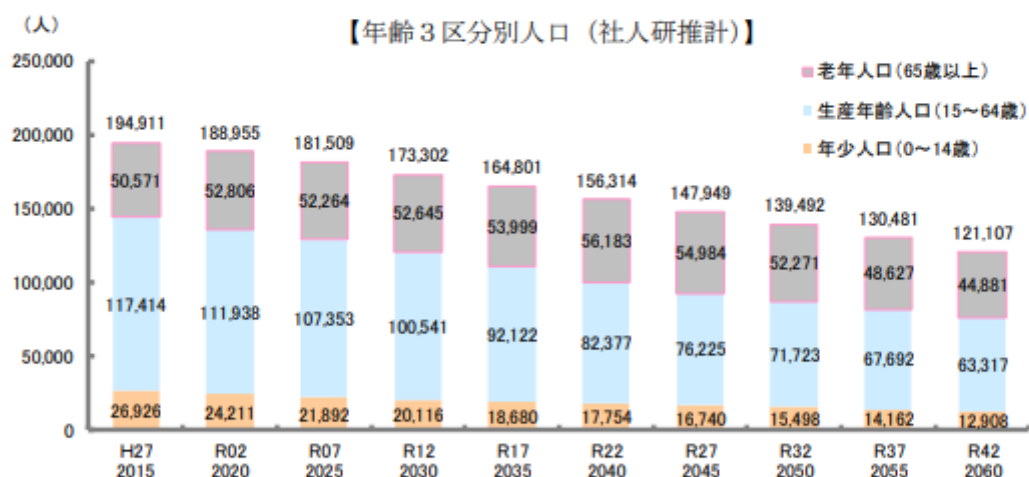
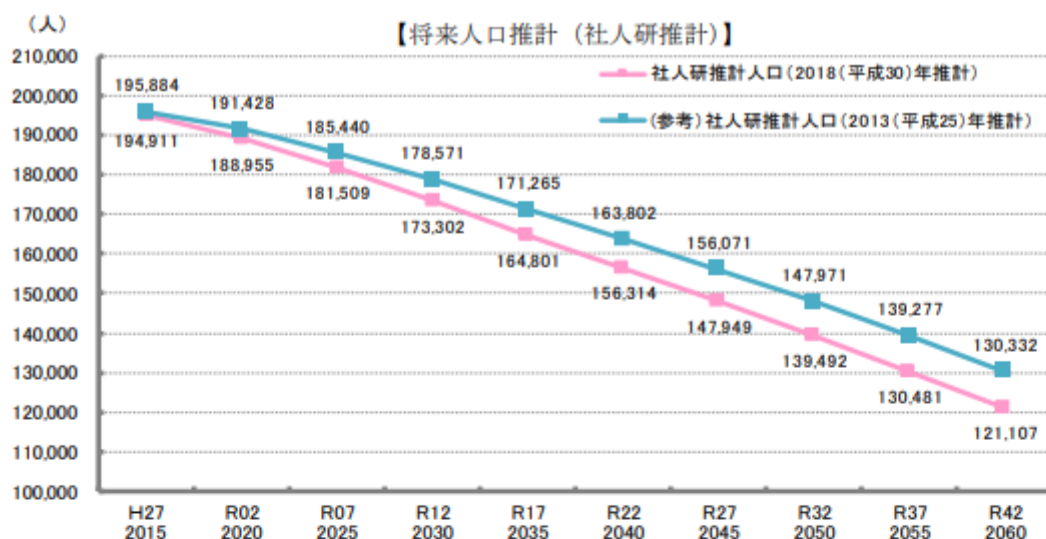
取組み内容	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
プロリーグや全国大会の開催・誘致 [公営競技事業所・スポーツ振興課]										
KIX 泉州国際マラソンの開催に関する連携 [スポーツ振興課]										
ワールドマスターズゲームズ 2027 関西 BMX 競技大会の実施 [公営競技事業所・スポーツ振興課]	●●▶									
「ささえる」スポーツの推進 [スポーツ振興課]							●●●●●●●●●●			

(4) 民間の活力を活かした生涯スポーツの推進

取組み内容	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
スポーツイベントの開催 [公営競技事業所・スポーツ振興課]	●●●●●▶									
民間団体との連携 [公営競技事業所・スポーツ振興課]	●●●●●▶									
大学との連携 [スポーツ振興課]	●●▶									

【参考資料】

■岸和田市将来人口推計(岸和田市人口ビジョン(令和2年3月改訂版))



	H27	R02	R07	R12	R17	R22	R27	R32	R37	R42
老年人口割合	25.9%	27.9%	28.8%	30.4%	32.8%	35.9%	37.2%	37.5%	37.3%	37.1%
生産年齢人口割合	60.2%	59.2%	59.1%	58.0%	55.9%	52.7%	51.5%	51.4%	51.9%	52.3%
年少人口割合	13.8%	12.8%	12.1%	11.6%	11.3%	11.4%	11.3%	11.1%	10.9%	10.7%

資料：日本の地域別将来推計人口(2018(平成30)年推計)「国立社会保障・人口問題研究所(社人研)」

※2050(令和32)年以降の推計値は、社人研の推計手法に準拠した推計値

第3期スポーツ基本計画（概要）

【第2期計画期間中の総括】

- ① 新型コロナウイルス感染症：
 - ▶ 感染拡大により、スポーツ活動が制限
- ② 東京オリンピック・パラリンピック競技大会：
 - ▶ 1年延期後、原則無観客の中で開催

- ③ その他社会状況の変化：
 - ▶ 人口減少・高齢化の進行
 - ▶ 地域間格差の広がり
 - ▶ DXなど急速な技術革新
 - ▶ ライフスタイルの変化
 - ▶ 持続可能な社会や共生社会への移行

こうした出来事等を通じて、改めて確認された

- ・「楽しさ」「喜び」「自発性」に基づき行われる本質的な『スポーツそのものが有する価値』（Well-being）
- ・スポーツを通じた地域活性化、健康増進による健康長寿社会の実現、経済発展、国際理解の促進など『スポーツが社会活性化等に寄与する価値』

を更に高めるべく、第3期計画では次に掲げる施策を展開

1. 東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に資する重点施策

持続可能な国際競技力の向上

- 東京大会の成果を一過性のものとせず、持続可能な国際競技力を向上させるため、
 - ・NFの強化戦略プランの実効性を支援
 - ・アスリート育成/パスウェイを構築
 - ・スポーツ医・科学、情報等による支援を充実
 - ・地域の競技力向上を支える体制を構築

共生社会の実現や多様な主体によるスポーツ参画の促進

- 東京大会による共生社会への理解・関心の高まりと、スポーツの機運向上を契機としたスポーツ参画の促進
- オリパラ教育の知見を活かしたアスリートとの交流活動等を推進

スポーツを通じた国際交流・協力

- 東京大会に向けて、世界中の人々にスポーツの価値を届けたスポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）事業で培われた官民ネットワークを活用し、更なる国際協力を展開、スポーツSDGsにも貢献（ドープ防止活動に係る人材・ネットワークの活用等）

大規模大会の運営ノウハウの継承

- 新型コロナウイルス感染症の影響下という困難な状況の下で、東京大会を実施したノウハウを、スポーツにおけるホスピタリティの向上に向けた取組も含め今後の大規模な国際競技大会の開催運営に継承・活用

地方創生・まちづくり

- 東京大会による地域住民等のスポーツへの関心の高まりを地方創生・まちづくりの取組に活かし、将来にわたって継続・定着
- 国立競技場等スポーツ施設における地域のまちづくりと調和した取組を推進

スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保

- 東京大会でも課題となったアスリート等の心身の安全・安心を脅かす事態に対応するため、
 - ・誹謗中傷や性的ハラスメントの防止
 - ・熱中症対策の徹底など安全・安心の確保
 - ・暴力根絶に向けた相談窓口の一層の周知・活用

2. スポーツの価値を高めるための第3期計画の新たな「3つの視点」を支える施策

スポーツを「つくる／はぐくむ」

社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し、最適な手法・ルールを考えて作り出す。

- ◆ 柔軟・適切な手法や仕組みの導入等を通じた、多様な主体が参加できるスポーツの機会創出
- ◆ スポーツに取り組む者の自主性・自律性を促す指導ができる質の高いスポーツ指導者の育成
- ◆ デジタル技術を活用した新たなスポーツ機会や、新たなビジネスモデルの創出などDXを推進

スポーツで「あつまり、ともに、つながる」

様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、ともに課題に対応し、つながりを感じてスポーツを行う。

- ◆ 施設・設備整備、プログラム提供、啓発活動により誰もが一緒にスポーツの価値を享受できる、スポーツを通じた共生社会の実現
- ◆ スポーツ団体のガバナンス・経営力強化、関係団体等の連携・協力による我が国のスポーツ体制の強化
- ◆ スポーツ分野の国際協力や魅力の発信

スポーツに「誰もがアクセスできる」

性別や年齢、障害、経済・地域事情等の違い等によって、スポーツの取組に差が生じない社会を実現し、機運を醸成。

- ◆ 住民誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供
- ◆ 居住地域にかかわらず、全国のアスリートがスポーツ医・科学等の支援を受けられるよう地域間連携の強化
- ◆ 本人が望まない理由でスポーツを途中で諦めることがない継続的なアクセスの確保

3. 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む12の施策

① 多様な主体におけるスポーツの機会創出

地域や学校における子供、若者のスポーツ機会の充実と体力向上、体育の授業の充実、運動部活動改革の推進、女性・障害者・働く世代・子育て世代のスポーツ実施率の向上 等

④ スポーツの国際交流・協力

国際スポーツ界への意思決定への参画支援、スポーツ産業の国際展開を促進するプラットフォームの検討 等

⑦ スポーツによる地方創生、まちづくり

武道やアウトドアスポーツ等のスポーツツーリズムの更なる推進など、スポーツによる地方創生、まちづくりの創出の全国での広がり 等

⑩ スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材

民間・大学も含めた地域スポーツ施設の有効活用促進、地域スポーツコミッションなど地域型組織の活用、全NFでの人材育成及び活用に関する計画策定を促進、女性のスポーツ指導に精通した指導者養成支援 等

② スポーツ界におけるDXの推進

先端技術を活用したスポーツ実施のあり方の拡大、デジタル技術を活用した新たなビジネスモデルの創出 等

⑤ スポーツによる健康増進

健康増進に資するスポーツに関する研究の充実・調査研究成果の利活用促進、医療・介護や企業、保険者との連携強化 等

⑧ スポーツを通じた共生社会の実現

障害者や女性のスポーツの実施環境の整備、国内外のスポーツ団体の女性役員候補者の発用・育成の支援、意識啓発・情報発信 等

⑪ スポーツを実施する者の安全・安心の確保

暴力や不適切な指導等の根絶に向けた指導者養成・研修の実施、スポーツ安全に係る情報発信・安全対策の促進 等

③ 国際競技力の向上

中長期的強化戦略に基づく競技力向上支援システムの確立、地域における競技力向上を支える体制の構築、国・JPO・地方公共団体等一体となった国民体育大会の開催 等

⑥ スポーツの成長産業化

スタジアム・アリーナ整備の充実促進、他産業とのオープンイノベーションによる新ビジネスモデルの創出支援 等

⑨ スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化

ガバナンス・コンプライアンスに関する研修等の実施、スポーツ団体の戦略的経営を行う人材の雇用創出を支援 等

⑫ スポーツ・インテグリティの確保

スポーツ団体へのガバナンスコードの普及促進、スポーツ仲裁・調停制度の整備等推進、教育研修や研究活動等を通じたドープ防止活動の展開 等

『感動していただけるスポーツ界』の実現に向けた目標設定

全ての人が自発的にスポーツに取り組むことで自己実現を図り、スポーツの力で、前向きで活力ある社会と、絆の強い社会を目指す

国民のスポーツ実施率を向上

- ✓ 成人の週1回以上のスポーツ実施率を7.0%（障害者は4.0%）
- ✓ 1年に一度以上スポーツを実施する成人の割合を10.0%に近づける（障害者は7.0%を目指す）

生涯にわたって運動・スポーツを継続したい子供の増加

（児童86%⇒90%、生徒82%⇒90%）

子供の体力の向上

（新体力テストの総合評価C以上の児童68%⇒80%、生徒75%⇒85%）

誰もがスポーツに参画でき、共に活動できる社会を実現

- ✓ 体育授業への参加を希望する障害のある児童生徒の見学ゼロを目指した学習プログラム開発
- ✓ スポーツ団体の女性理事の割合を40%

オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会で、過去最高水準の金メダル数、総メダル数、入賞者数、メダル獲得競技数等の実現

スポーツを通じて活力ある社会を実現

- ✓ スポーツ市場規模15兆円の達成（2025年まで）
- ✓ スポーツ・健康まちづくりに取り組む地方公共団体の割合15.6%⇒40%

スポーツを通じて世界とつながる

- ✓ ポストSFT事業を通じて世界中の国々の700万人の人々への裨益を目標に事業を推進
- ✓ 国際競技連盟（IF）等役員数37人規模の維持・拡大

第3次大阪府スポーツ推進計画（概要）

第1章

1 計画策定の趣意

第3次計画
継承と発展

これまでの計画を

2 計算規定の要点

○第2次計画の進

◎都市魅力創造

トップスポーツチーム等の魅力的なスポーツ資源を、観光・食や大版の強みと結び合わせて最大限に活用し、「楽しさ」をキーワードに、スポーツによる健康づくりやスポーツツーリズムの推進等に重点を置いて、スポーツとともに人とまちが成長する施策を展開する際の羅針盤として、今後5年間（計画期間：令和4（2022）年度～令和8（2026）年度）の幅広い分野にかかわるスポーツ施策を戦略的に推進していくための具体的な方向性を示す。

第2章 計画の基本的な考え方

ろざすべきスポーツ像（目標）

「スポーツ産業創都市・大阪」

～スポーツとともに成長し、楽しさあふれる大阪へ～



基本理念

- 題もが「する」「みる」「ささえる」を理じスポーツを樂しむ
●スポーツの樂しさを共知し、樂しさがあふれる大団のまちへ
●スポーツの樂しさを理じ、人とまちが活性化し、ともに成長
する

第5章 スポーツ

- 1 情報発信の強化～「する」「みる」「ささえる」は「しる」ことから～
 - ・計画自体の幅広い周知、理念の共有
 - ・スポーツチーム、大塚光苑高等との連携、魅力的なコンテンツ
 - ・トップレベルの強化
- 2 市内の運動体制の強化
 - ・スポーツ担当部局（市民文化体育スポーツ振興課）と連携強化
 - ・大塚スポーツコミッション（USAKA SPORTS PROMOTION）の活用
- 3 幅広い分野にかかわるスポーツ施策を、より効果的、一元的に推進する

第 6 章

1. 参考指標
計画の進捗状況をモニタリングするために、参考となる指標を設定するとともに、計画の進捗状況や社会の変化等を踏まえて、適宜、必要の見直しを行う。
指標例：成人の週1回以上のスポーツ実施率/大府府障がい者スポーツ大会における参加者数/主なスポーツチームの主権試合での観戦者台数/「スポーツ大阪」へのセッション数/公式SNSのフォロー数
2. 計画の検証と中間見直し
大府府スポーツ推進計画制創案（仮）を位置し、進捗状況の検証を行うとともに、コロナ等社会状況の変化や運動部活動改革等国の動向に対応できるように、計画3年目の令和6（2024）年度を目途に、計画の見直しについて検討。

■岸和田市スポーツ推進計画（改定版）策定経過

○2022 年 10 月 3 日 岸和田市スポーツ推進審議会

- ・「岸和田市スポーツ推進計画中間見直しのための市民意識調査」（案）について審議

○2022 年 12 月～2023 年 2 月

- ・「岸和田市スポーツ推進計画中間見直しのための市民意識調査」実施

○2023 年 8 月 23 日 岸和田市スポーツ推進審議会

- ・「岸和田市スポーツ推進計画中間見直しのための市民意識調査」結果について報告

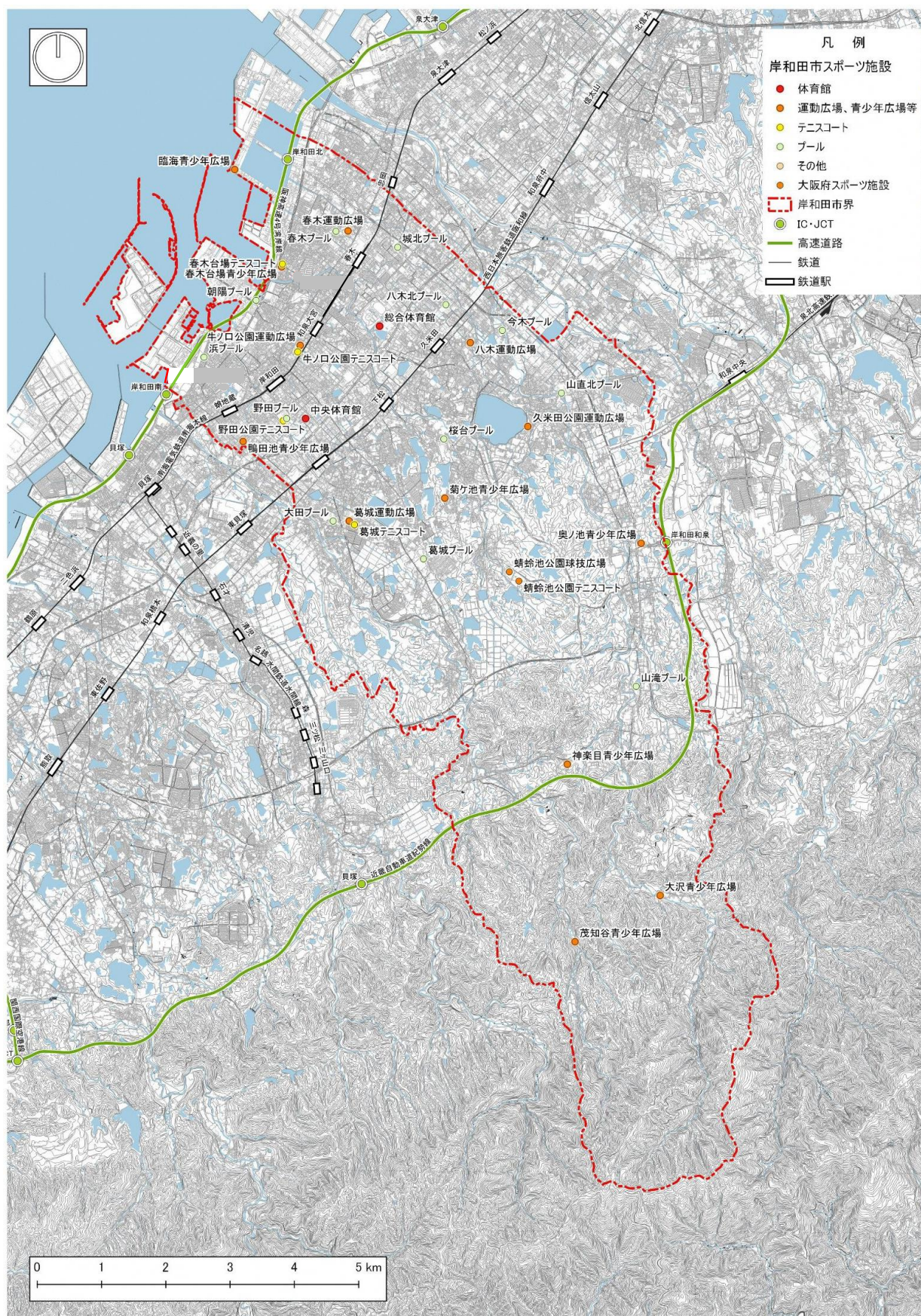
○2024 年 2 月 16 日 岸和田市スポーツ推進審議会

- ・岸和田市スポーツ推進計画（改定版）（案）の施策内容について審議

○2024 年●月●日～2024 年●月●日

- ・パブリックコメント実施

■岸和田市スポーツ関連施設位置図



市内在住の 18 歳以上の市民 4,000 人 回答 1,137 通（回収率 28%）

市内の小学校 4 年生 1,646 人 回答 1,050 通（回収率 64%）

市内の中学校 1 年生 1,541 人 回答 977 通（回収率 63%）

市内在住の未就学児（幼稚園・保育園等在園）の保護者 3,038 人 回答 252 通（回収率 8%）

協力 金子 勝司 大阪体育大学教育学部学部長

1. スポーツ活動の推進

（2）学校・家庭・地域が連携した子どもの体力向上、青少年の健全育成、仲間づくりの推進（P.12）

○運動部活動の充実

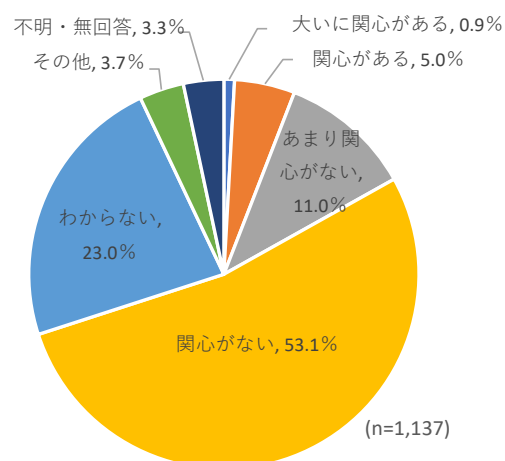
市民意識調査結果

- 中学校の部活動の地域移行について、「関心がない」「わからない」と回答する割合が高い

中学校の部活動の地域移行への関わり

問：中学校の部活動の段階的な地域移行が検討されていますが、指導者等として関わることに
関心はありますか？

- 半数以上が「関心がない」 男性、若い世代のほうに関心は高い



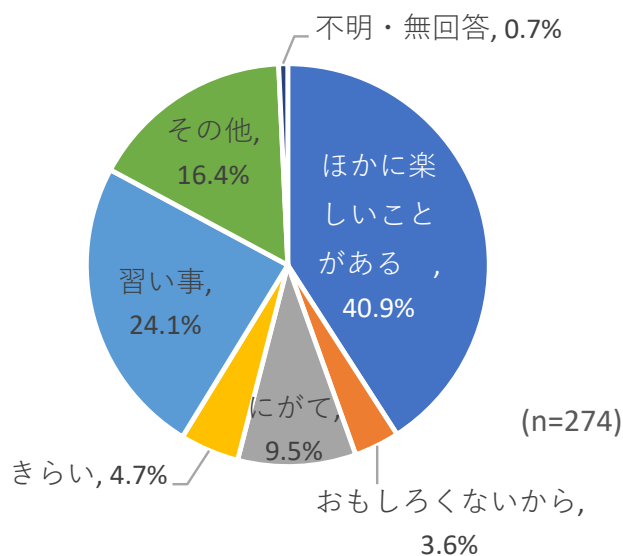
○子どもがスポーツに親しむことができる機会の充実

市民意識調査結果	
●	小中学生が運動・スポーツをしない理由として、「他に楽しいことがある」、「苦手」と回答する割合が高い
●	中学生について、部活動で毎日運動している生徒としていない生徒の二極化が進んでいる
●	中学生の女子生徒の半数以上が学校の自由時間等のスポーツ・運動や帰宅後の外遊びをしない

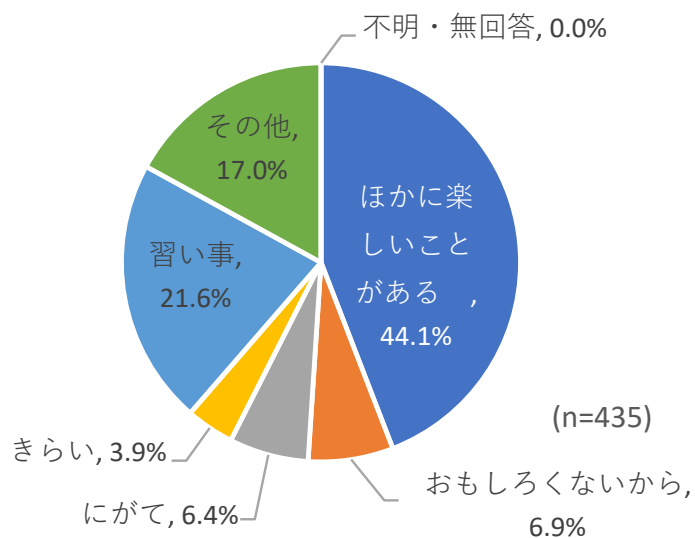
学校から家に帰って、外で遊ばない理由

問：なぜ外で遊ばないのですか？	
●	小・中学生共通して「ほかに楽しいことがある」女子より男子のほうが多い
●	小学生女子は「習い事」が3割近く

<小学生>



<中学生>



(3) 働き盛り世代・子育て世代のスポーツの促進 (P. 13)

○スポーツの「きっかけ」に向けた意識啓発

市民意識調査結果

- 働き盛り世代（30～50歳代）の運動・スポーツ実施率が低い
- 特に30代や女性の実施率が低い

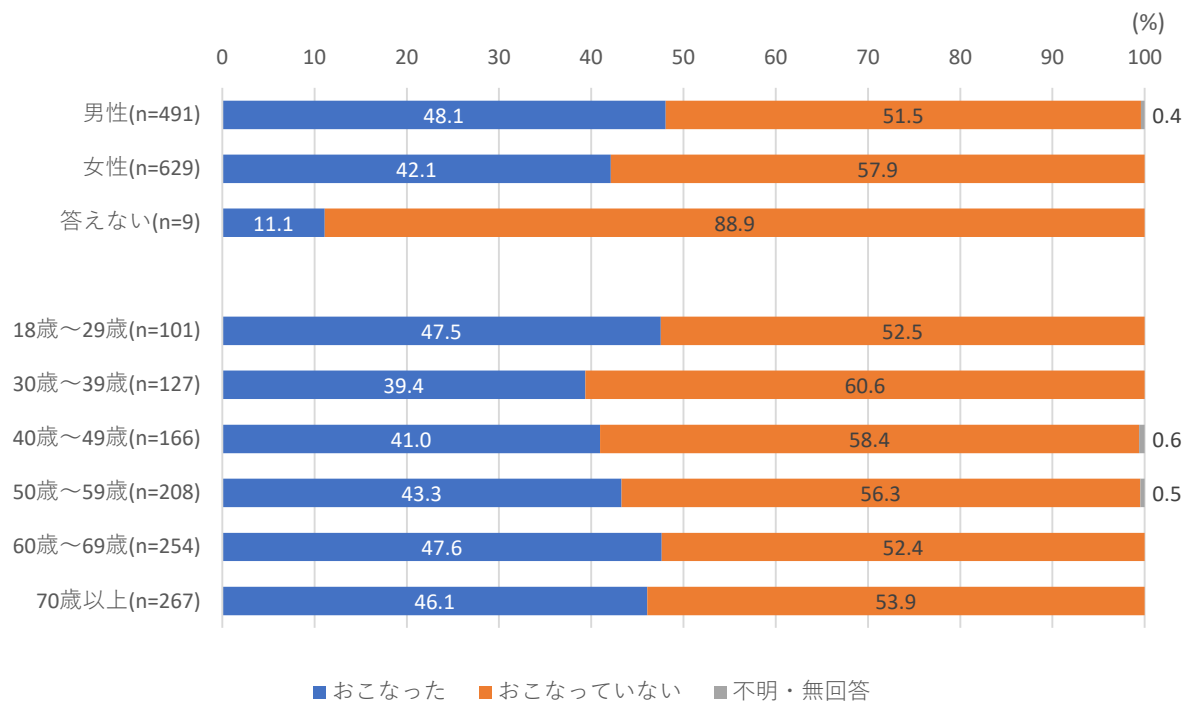
過去1年間の運動・スポーツ活動

問：あなたは過去1年間でなんらかの運動・スポーツ活動をおこないましたか？

※学校の体育の授業としておこなったものや、職業としておこなったものは除きます。

- 運動・スポーツ実施率は44.5%で、前回調査よりやや低下
- 女性より男性、20代の運動・スポーツ実施率が高い(女性、30代の運動・スポーツ実施率が低い)

性別では、運動・スポーツの実施率は、男性のほうが高い(男性48.1%、女性42.1%)



○スポーツ活動をしやすい環境づくり

市民意識調査結果
●ウォーキングやジョギング・ランニングに取り組む市民が多い

この1年間で主におこなった運動・スポーツ

問：あなたがこの1年間で主におこなった運動・スポーツ(種目)をご記入ください。
●「ウォーキング」や「筋力トレーニング」をはじめ、ひとりのできる運動・スポーツが多い

過去1年間になんらかの運動・スポーツをおこなったと回答した方に、この1年間におこなった主な運動・スポーツの種目を聞いたところ、「ウォーキング」が32.6%と最も多く、次いで「筋力トレーニング」が18.4%、「ゴルフ」14.0%、「ジョギング・ランニング」が11.7%、「体操」が11.1%とつづき、「ひとり」で実施できる運動・スポーツの種目が多くあげられている。

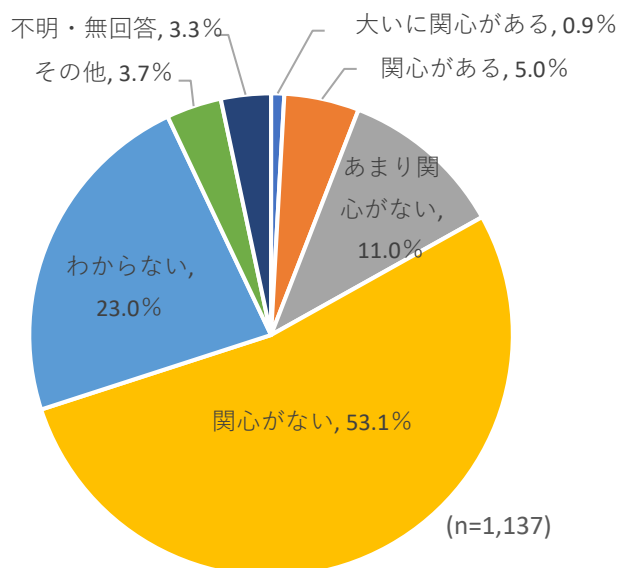
(6) スポーツ関係団体等との連携・協働 (P.16)

○市内スポーツ関係団体と連携した中学校運動部活動の地域移行の推進

市民意識調査結果
●中学校運動部活動の地域移行について関心が低い

中学校の部活動の地域移行への関わり

問：中学校の部活動の段階的な地域移行が検討されていますが、指導者等として関わることに関心がありますか？
●半数以上が「関心がない」 男性、若い世代のほうが関心は高い



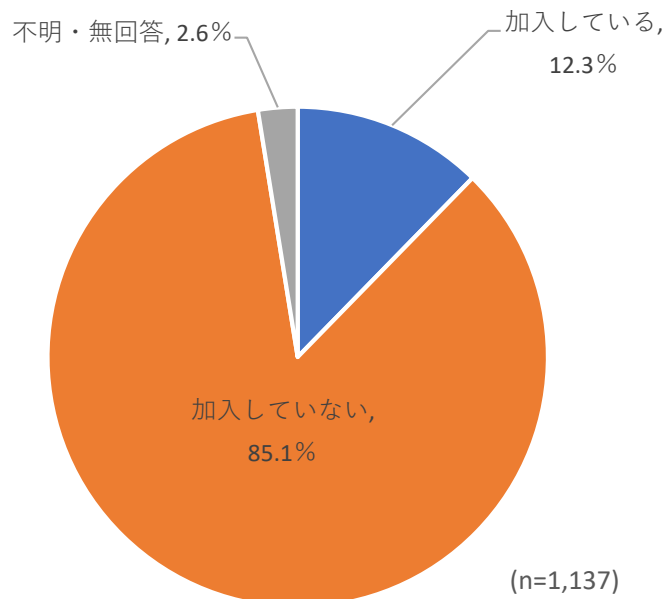
市民意識調査結果

- スポーツ団体やクラブに加入していない人が多く、団体やクラブを知らない人も多い

スポーツの団体、クラブや同好会への加入状況

問：あなたはスポーツの団体、クラブや同好会に加入していますか？

- スポーツ団体、クラブや同好会への加入は1割程度
- 特に30～50代の働き盛り世代の加入率が低い

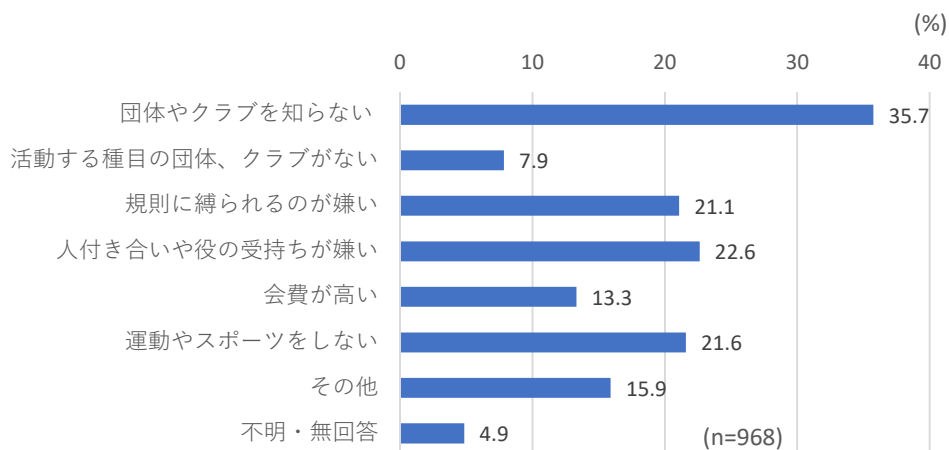


団体やクラブに加入していない理由

問：団体やクラブに加入していないとお答えの方にお聞きします。

加入していない理由は何ですか？（複数選択可）

- 「団体やクラブを知らない」が4割近く
- 30代までは「団体やクラブを知らない」が半数以上



2. スポーツ環境の整備

(1) 社会体育施設等の適切な管理運営と計画的な施設の再編整備 (P. 18)

○社会体育施設以外の活用

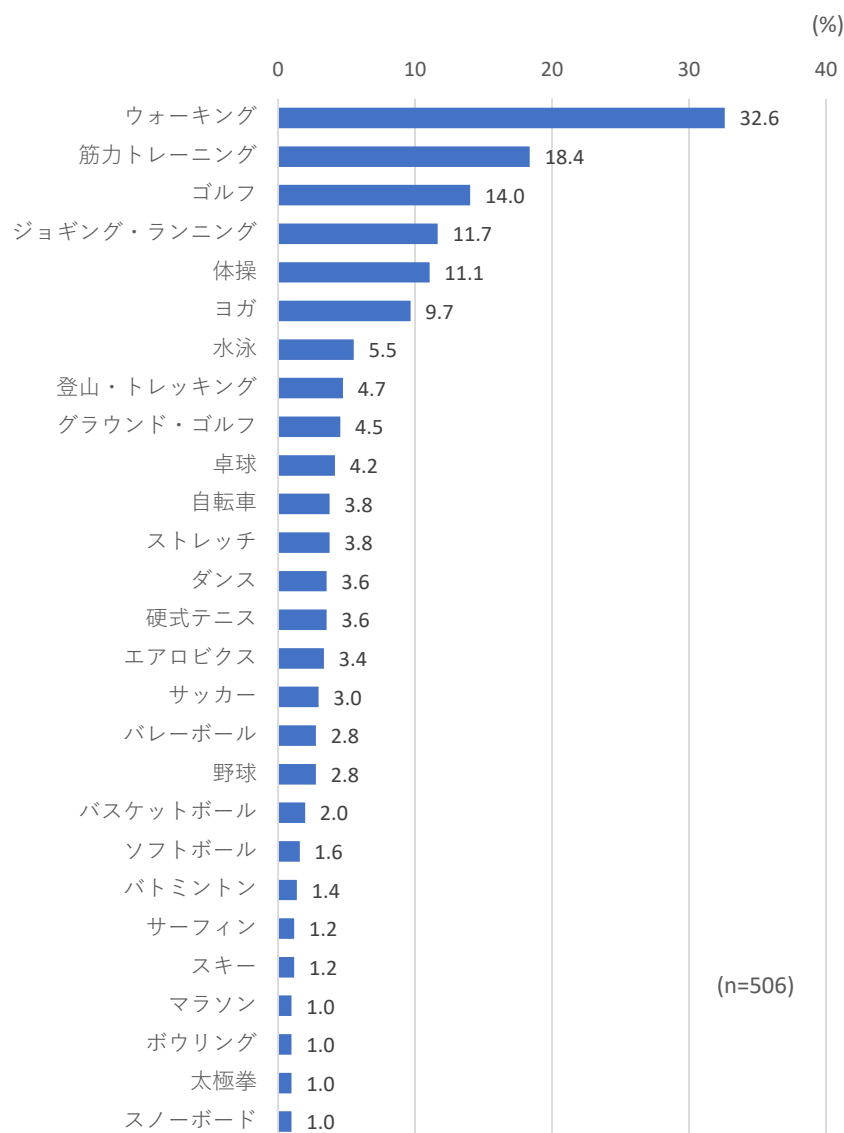
市民意識調査結果

- ウォーキングやジョギング・ランニング等、市内の道路等の都市インフラを使っている市民が多いと推察される

この1年間で主におこなった運動・スポーツ

問 12 あなたがこの1年間で主におこなった運動・スポーツ(種目)をご記入ください。

- 「ウォーキング」や「筋力トレーニング」をはじめ、ひとりのできる運動・スポーツが多い



○スポーツ関連施設の整備／○スポーツ関連施設の維持管理

市民意識調査結果
●総合体育館、公民館・青少年会館、中央体育館等の利用が多いが、運動・スポーツ広場やプール、テニスコート等、市内スポーツ施設も幅広く利用されている

利用した市内の公共スポーツ施設

問：市内の公共スポーツ施設利用した方にお聞きします。あなたが、利用した市内の公共スポーツ施設はどこですか？（複数選択可）
●「総合体育館」や「公民館・青少年会館」、「中央体育館」の利用者が多い
●コロナの影響もあってか、プールの利用が減少

「市内の公共スポーツ施設」を利用したと回答した方に、利用した施設の名称を聞いたところ、「総合体育館」が 26.9%と最も多く、次いで「公民館・青少年会館」が 19.2%、「中央体育館」が 17.3%、「まなび中央公園スポーツ広場」が 14.7%とつづく。

前回調査（2017 年度）と比較すると、「総合体育館」や「公民館・青少年会館」などの割合が大きく増加する一方で、「まなび中央公園プール」や「野田プール」、「朝陽プール」などの割合が減少している。

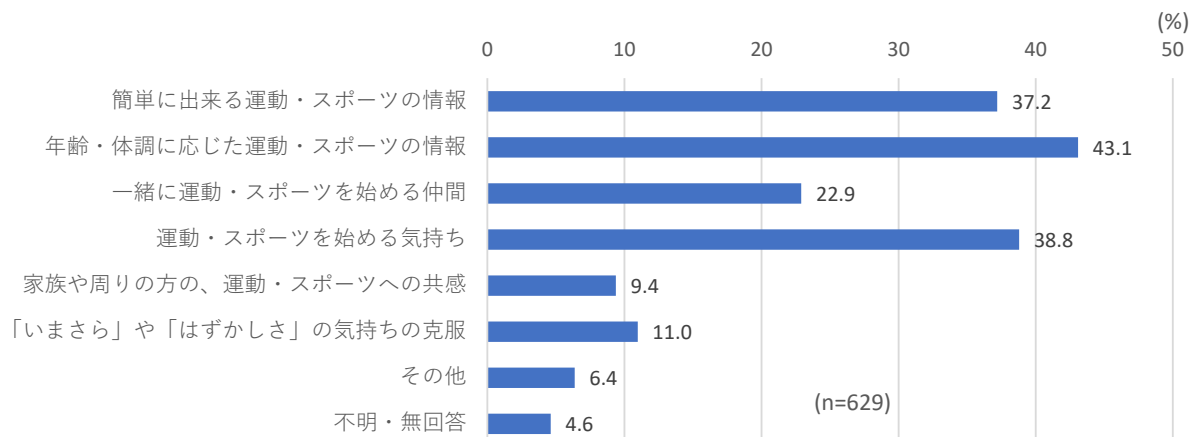
（４）スポーツ情報の積極的発信・収集 （P. 22）

○多様なメディアの活用

市民意識調査結果
●スポーツをはじめるために簡単にできるスポーツ情報や年齢・体調に応じた運動・スポーツ情報を求める市民が多い
●スポーツ団体やクラブについて知らない市民が多い
●総合型地域スポーツクラブ、スポーツリーダーズクラブ、スポーツ推進委員について知らない市民が多い
●スポーツ大会やイベント開催、スポーツ教室について知らない市民が多い

運動・スポーツをおこなっていない方が運動・スポーツをはじめるために必要なこと

問：運動・スポーツをおこなっていない方が、運動・スポーツを始めるためには何が必要だと思いますか？
●年齢や体調に応じて、簡単に出来る運動・スポーツの情報や運動・スポーツを始めようと思う気持ちが必要
●年齢（ライフステージ）に応じて運動・スポーツを始めるために必要なものが異なる



3. スポーツ活力を活かした魅力の創造

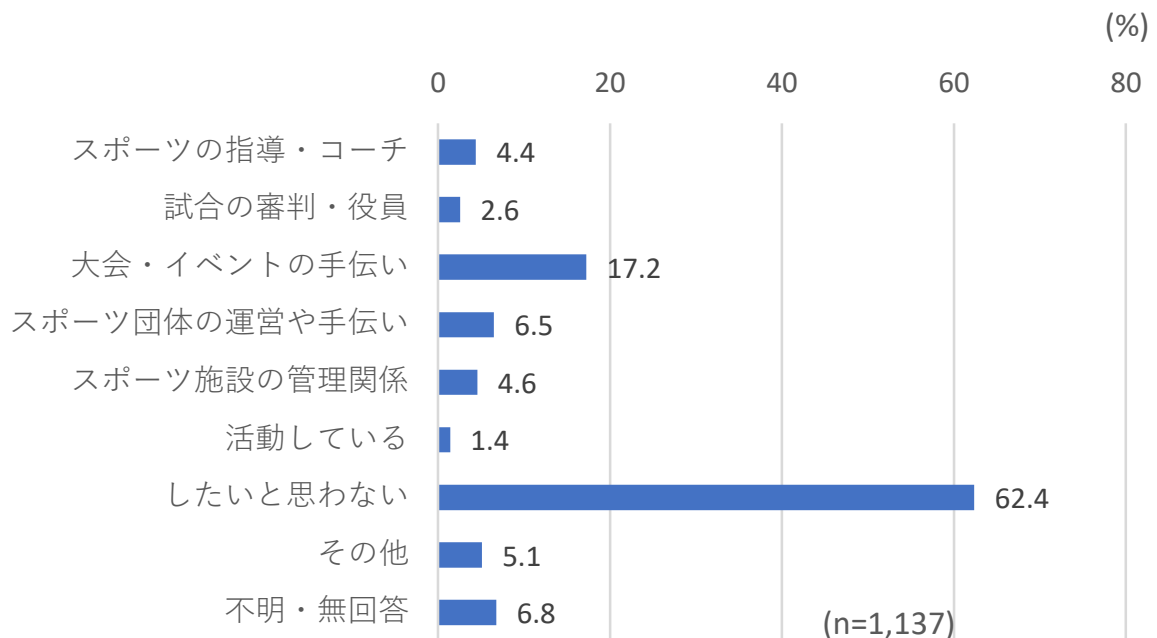
(3) 大規模スポーツイベントの開催・誘致 (P.23)

○「ささえる」スポーツの推進

市民意識調査結果
●スポーツボランティアについて「したいと思わない」と回答する市民が6割超

やってもよいスポーツボランティア活動

問：あなたはどのようなスポーツボランティア活動であればしてもよいとお考えですか？（複数選択可）
●6割以上が、スポーツボランティア活動を希望していない
●やってもよい活動は、「大会・イベントの手伝い」や「スポーツ団体の運営や手伝い」など



(4) 民間の活力を活かした生涯スポーツの推進 (P. 24)

○大学との連携

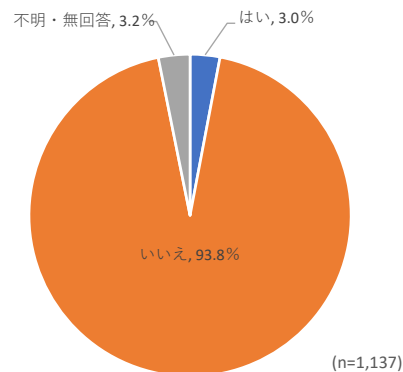
市民意識調査結果

- 大阪体育大学との連携協定について知らない市民が多い
- 大阪体育大学に教えてもらいたいこととして、ストレッチや体の回復に役立つ方法、家の中でも行えるトレーニング等を求める回答が多い

「大阪体育大学」と連携協力の協定について

問：岸和田市では、地域住民の健康づくり及び地域の活性化に向けて、相互の連携を推進するため「大阪体育大学」と連携協力の協定を結んでいることをご存じですか？

- ほとんどの人が「知らない」

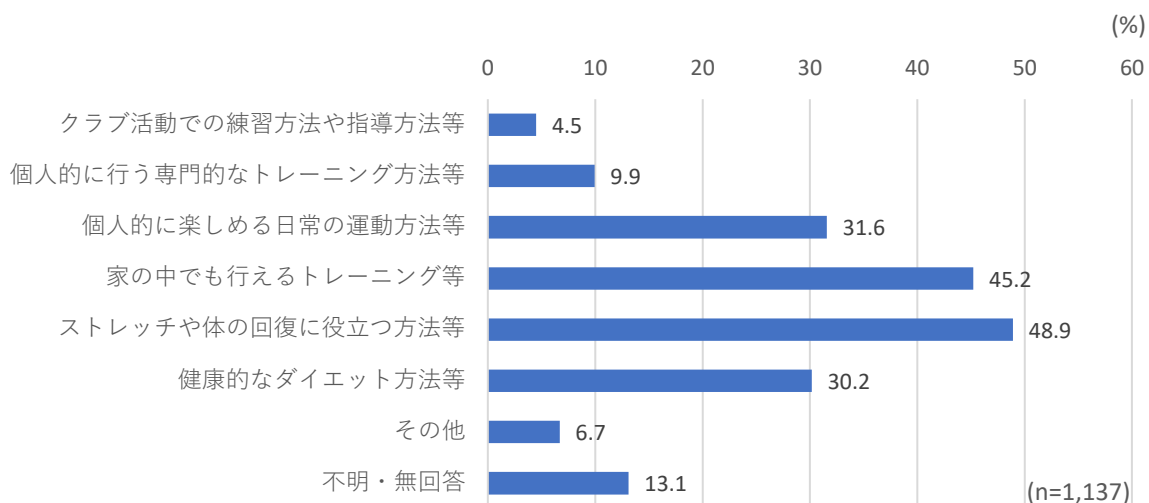


「大阪体育大学」に教えてもらいたいこと

問：スポーツ(全般)について「大阪体育大学」に教えてもらいたいことはありますか？

(複数回答可)

- ストレッチや体の回復に役立つ方法や家の中でも行えるトレーニング等、日々の暮らしの中での健康づくりや体力づくりに関する情報についてのニーズが高い



岸和田市スポーツ推進計画(改定版)

2024 年●月

問い合わせ先：岸和田市教育委員会 生涯学習部スポーツ振興課

〒596-8510 大阪府岸和田市岸城町 7 番 1 号 市役所旧館地下 1 階

Tel：072-447-7072 Fax：072-423-5030